

# 月刊 サンエスウォッチング Vol.24

## 座らない椅子・・・アキレスサドル

▶前号で紹介した「ジェイフィット」開発の少し前、ロードバイクを買って乗ったはいいけれど、初めて体験するお尻の痛み問題を解決することができず、遂には自転車愛好から離脱する、という事態を耳にするようになっていました。スポーツ自転車のサドルは“座するための椅子”なのか？…今からちょうど30年程前に当社で輸入していたイタリアメーカー製高級レーシングサドル「カンピオニッシモ」の某誌への広告を制作した時、キャッチコピーに「**すわらないイス**」と表現したことがありました。後にも先にも最高のコピーと思ってるのですが、この“座らない”という感触を具現化したい、というテーマでサドルの設計を始めました。

▶それまで多くの一流サドルを取り扱っておりましたが、それらを気にすることなく“座らない”を考えた挙句に「座っている感触を意識させない形状」を追求することにしました。ライダーはサドルの上でジツとしているわけではなく常に左右前後上下に動きながらも、やはりほとんど乗っかって（座って）います。設計のポイントは「サドルに接触する身体のラインに見事に合わせる」「動いてもその接触による摩擦を感じない」というもので、それをできる限り多くの皆さん（バイクを買って乗って違和感が出ている人たち）に合うものにしたい。『なんだか分からないけどすごくいいね』に落ち着くように。

▶基礎となるベースの形状を設計し、表面の型を作り削り足しを繰り返し外形基本を作り、見えない部分であるクッション素材とその密度（硬度）、表面に貼る生地と素材とその張力、そしてシートポストと固定されるレールの素材や形状を設計していきます。

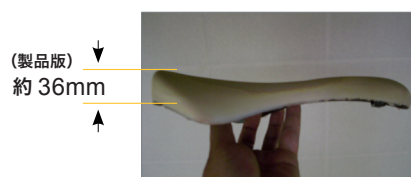
▶2005年出来上がった当初はとてもユニークな形状（アヒルの口ばし）に見えたらしく、著名なベテランライダーからも“変な形”と言われたのですが、使用いただくと「なんだかいい」となって、不思議なもので形状への違和感も同時に薄れ馴染んだそうです。

その後のサドル展開の基礎となった「アキレスサドル」。“スタンダード庶民派？サドル”として持続的に販売されています。

## Dixna (ディズナ)



モックアップを作り、削ったり足したりして身体のラインに合わせて行き、接地圧の自然な分散を図っています。



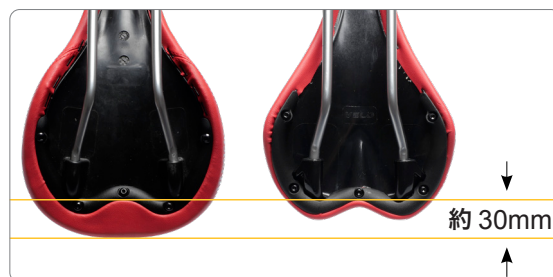
同時に「アキレスレディース」も開発。こちらは後部に30mm以上の厚みでクッション材を入れ込みセンターに溝を入れました。多くの女性から快適との評価を得ている「スタンダード女性派」サドルです。



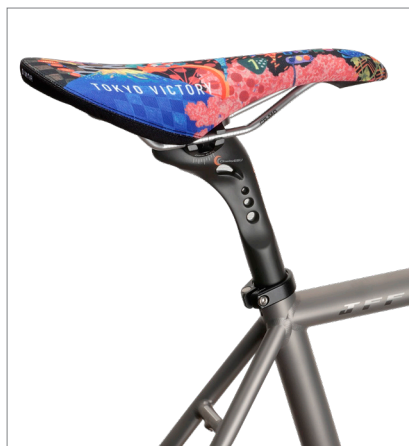
サイドビューはスリムながら座面は大きく、基本的には後部寄りに乗って状況で自然に移動する感触です。



最大の特徴として、後部はサドルベースから中のクッションと表面生地からなる本体のみを飛び出させ、且つ後ろに反り上がらせることで適度にクッションとなり、気づかない程度の自然な感覚でサドルの終了地点をむかえる工夫をしています。お尻に土手の違和感を無くしつつ安定させる狙いでもあります。



後部の本体を伸ばしたことで通常のサドルより少し長い290mmのボディとなりました。昨今のショートノーズとは主旨は違えど逆に長い全長によってサドル上でのお尻の移動が知らず知らずスムーズにこなせるように設計しています。また座面を大きく取りながらも太腿との接触面を滑らかになるよう落とし込んでおり、スムーズなペダリングも可能にしています。



イラストレーターの『Pちゃん』がトップを描いた「アキレス&アキレスレディース」。

才を発揮する色彩魔術士Pちゃんは、色彩芸術心理療法士、心理カウンセラーの肩書きも持つ才女。キャンパス風の生地に描かれた日本風情の中、「TOKYO(トウキョウ)」は1990年に、「VICTORY(ビクトリー)」は1996年に当社先代社長が商標登録していた名称で、まさに今「TOKYO VICTORY」としてエールを送るが如く、限定販売を開始しました。



Pちゃんサイクル コラボ VICTORY

アキレスサドル

アキレスレディースサドル

○今回は誌面の都合上VIVA～自転車万歳～!!をお休みさせていただきます。 ● 次回、月刊サンエスウォッチング Vol.25は2020年7月10日(金)の配信予定です。